



私たちは緊急出動ゼロを目指しています！

事業方針：丁寧な・熱心な作業も技術の一つです！

おさらい-⑤ 新型 担体流出防止スクリーンは、閉塞や異物通過をstopしています！

dsp排水処理槽には、下記の担体が組み込まれた担体流動槽方式が数多く存在致します。

当該担体は流動槽内で損傷し割れて、担体漏れ防止スクリーンを通過し沈殿槽に入り、設置の越流堰からポンプ槽に流れ出ます。

そして、ポンプの詰まりやスクリーンで閉塞を起こします。

流出防止装置は担体の材質・形状により異なりますが、添付写真に示す装置を設置し、破損担体の通過や閉塞を防止しています。

本装置の採用により、流入ポンプ槽と放流ポンプ槽の満水や過負荷の警報は激減しています。



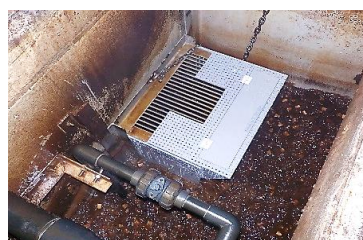
写真-1



担体流出防止スクリーン-①



担体流出防止スクリーン-②



担体流出防止スクリーン-③



担体流出防止スクリーン-④



担体流出防止越流堰-⑤

水物語 No149 夏の夜空に咲く大輪の華、各地は花火大会で盛り上がります！

現在一般的に日本の三大花火大会といえば、「大曲の花火（秋田県）」「土浦全国花火競技大会（茨木県）」「長岡まつり大花火大会（新潟県）」が挙げられます。その規模と美しさから一生に一度は見たいと人気を集めています。都内であれば「隅田川花火大会」「江戸川区花火大会」「足立の花火」が有名です。

その中でも足立区在住の筆者には「足立の花火」は夏の風物詩としてなじみ深いものです。その起源は明治時代、千住大橋の落成を祝って花火を上げたのが始まりとされています。その後、大正13年千住新橋開通記念として「千住の花火大会」として開催されました。しかし戦争の影響で昭和14年に一時中断、戦後昭和24年に再開されるも昭和34年以降、河岸工事のため「千住の花火大会」は姿を消しました。

1970年代に区民から花火大会復活を望む声が多く届くようになり昭和54年「足立の花火大会」へと名称を変え20年ぶりに復活しました。近年は2020年～2022年は新型コロナの影響で中止、2024年、2025年は荒天のため中止という状況でした。そして2026年、3年ぶりに開催され区内外の観客を大いに沸かせました。参考：あだち観光ネットHP



筆者は自宅ベランダからの観覧となりましたが生で見る花火の発色と音の響きはモニターでは味わえない感動がありました。

特 許 クリーンテックサービス東京は「dsp・HVシステム」「油脂ゼロポンプ槽」の2つの特許でCo2削減しています！